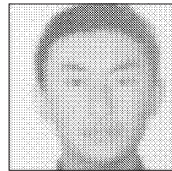


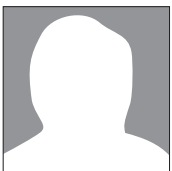
午後8時頃、アムド、ツォゴン地区のチャキュン僧院内でチベット弾圧に抗議する焼身を行った。病院へ搬送される途中、軍と警察によって連れ去られ、行方不明となっている。「チベットは独立し、自由になるべきだ。ダライ・ラマ法王をチベットに」という遺書を残していた。僧院では昨年からは愛国再教育が強化されており、これに僧侶たちが反発していた。



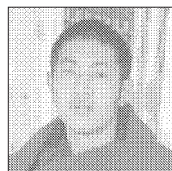
午後1時半頃、アムド、ケンロ、ルチュのシツァン僧院で、中国政府のチベット弾圧に抗議する焼身を行い、その場で死亡した。2012年12月8日に同じ場所で焼身したペマ・ドルジェの従兄弟。この日はモンラム・チェンモ（大祈祷会）の最終日で僧院には多くのチベット人が集まっていた。



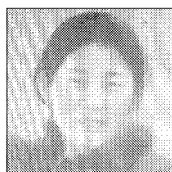
午前10時頃、アムド、ンガバ市郊外の路上で中国政府のチベット弾圧に抗議する焼身を行った。現場にかけつけた軍の部隊が病院へ運んだが、その後の消息は不明。



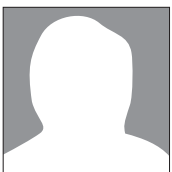
午後11時半頃、アムド、ンガバ、ゾゲ県タクツァ郷の中心街路上でチベット弾圧に対して焼身抗議、死亡した。8才の娘の母親。遺体は警察に運び去られ、遺族には翌日遺灰だけが渡された。当局は焼身の原因は夫婦喧嘩であると言うように命じたが、夫はこれを拒否したために連行・拘束された。



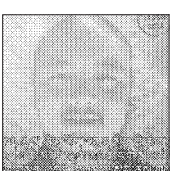
午後2時40分頃、アムド、ンガバのキルティ僧院内の自身の僧坊の前でチベット弾圧に抗議する焼身を行った。仏教の旗を手にして火をつけ門へ向かって走ったあと倒れた。病院へ運ばれてまもなく亡くなったが、そこへ軍と警察が大勢押し寄せて遺体を奪っていった。彼は幼少時にキルティ僧院に入り、現在は般若学のクラスに通っていた。



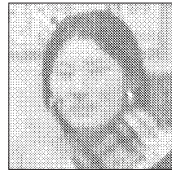
子供4人の母親。午後3時半頃、アムド、ンガバ州ザムタン県バルマ郷にあるチョナン僧院近くで、中国政府のチベット弾圧政策に抗議するために焼身、その場で死亡した。遺体はチョナン僧院へ運ばれたが、当局は僧院に夜までに葬儀を済ませるように命じ、そうしなければ遺体を運び出すと脅した。



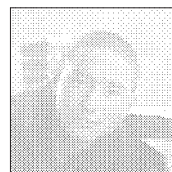
早朝、アムド、サンチュ、キツァン・メシュル郷、ネンペン村の森林の近くで、中国政府のチベット弾圧に対して焼身抗議を行った。彼は乾いた焚き木を積み重ねた上にガソリンをかけて火を放ち、その炎の中に自ら進み入った。彼は数年前から森林保護員として働いていた。



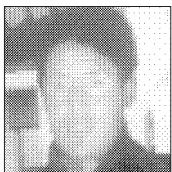
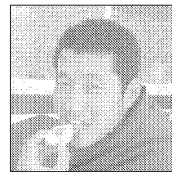
アムド、ケンロ、ルチュのモクリ僧院の僧侶。午後7時半頃、僧院近くの路上で中国政府のチベット弾圧に抗議する焼身を行い、その場で死亡した。遺体は僧院に運び込まれ、その日の夜中に葬儀が行われた。彼は幼少時に僧侶となり、勉学優秀で既にほとんどの学業を終えていた。



子供2人の母親。午後3時頃、アムド、ンガバ州ザムタン県バルマ郷にあるチョナン僧院近くで中国政府のチベット弾圧政策に抗議するために焼身、その場で死亡した。遺体はチョナン僧院へ運ばれたが、当局は僧院に夜までに葬儀を済ませるように命じた。このチョナン僧院そばでは3月24日にケル・キが焼身、死亡している。



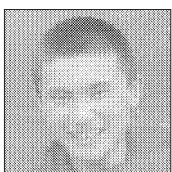
午後6時半頃、アムド、ンガバ、ゾゲのタクツァン・ラモ・キルティ僧院そばで、中国政府のチベット弾圧に対して焼身抗議を行い、その場で死亡した。二人とも幼い時にタクツァン・ラモ・キルティ僧院の僧侶となった。この僧院では2012年12月8日に僧侶クンチョク・ペルギェが焼身、死亡している。



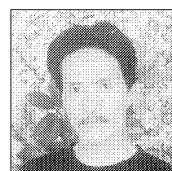
カム、ジェクンド、チュマレブのギャリンで、中国政府のチベット圧政に抗議するために焼身、その場で死亡した。数日前に、友人に「中国の政治はよくない。このままではチベットの宗教や文化が消滅してしまう恐れがある。もう中国の支配の下では生きる事ができない」と話していた。



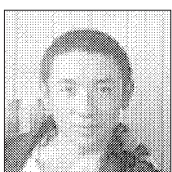
午後5時頃、カム、タウのニツォ僧院近くで焼身抗議を行った。ニツォ僧院では前日から大規模な僧侶たちの学習会が行われ、約3000人の僧侶や尼僧が集まっていた。前日に地元の学校を訪れた彼女は子ども達に「チベット語をしっかりと学ぶように」と語っていた。僧院近くでは2011年8月15日にツェワン・ノルブ、2011年11月3日にバルデン・チュツォが焼身、死亡している。



午前8時半頃、アムド、ンガバ、ゾゲ、タンコル郷のタンコル・ソクツァン僧院で焼身抗議を行い、その場で死亡した。遺体は両手を合わせた合掌の姿勢だった。彼は焼身前に友人に「中国の圧政の下に暮らさねばならないことは苦しみ元凶だ」と語っていた。



午後4時過ぎ、ンガバ州ンガバ県ゴマン郷タワ村の自宅で焼身抗議、その場で死亡した。村では祭りが行われており、彼はそれを監視する中国人役人の前で焼身すると友人に語っていた。遺体は家族から奪われ、その後遺灰が返されたが、当局は葬儀を行うことを許さず、その場で川に流すか土に埋めるように命じた。



午後7時半頃、ゴロ州ペマ県ペマの中心部にある八葉蓮華のモニュメント近くの路上で焼身抗議を行い、病院へ搬送される途中で死亡した。彼はチベット人同士の団結、また内外のチベット人が再会できることを願って焼身を行う、という遺書を残している。同じ場所で2012年12月3日にロプサン・ゲンドゥンが焼身抗議し、死亡している。